

● 一家を包んでくれた家に
ありがとう



太平洋戦争のあった中、小学校6年の私は静岡の浜松に学童疎開して、食糧も無く、勉強などせず、煙草ばかりで腹をすかせていました。父母は東京で蕎麦屋を営んでいましたが、戦争が始まってからは営業出来ず、親戚を頼って恵比寿のアパートに住まわせてもらってました。私は3人兄弟の末っ子で上には姉と兄がおりましたが、兄はずでに結核で亡くなりました。ある日、父が疎開先に訪ねてきました。迎えてきてくれたのです。私は「やっ」と喜び勇んで東京へ帰る事になりました。

ところが、帰る車中、父が「驚くなよ」とし、姉が「大好きだった姉ちゃん、涙がぼろぼろとこぼれ落ちました。姉も結核で亡くなったそうです。東京に帰り親子三人で生活しようと思いましたが、貧乏生活からは抜け出せず、父が出身地の知人を頼って一家で現在の高坂パーキングエリアの近くに引っ越しました。爾小屋を一家の住み家として家族で野良仕事に精を出しました。父は元来仕事に精を出すタイプの人で、反面教師となっていた。(父の生きた)父の踏ん張りや足りなかつたので、我々一家三人は恥をしのんで別々に知人や親戚を頼って居候をすることになってしまいました。父は親戚をたよって行つてしまいました。私は住み込みでレコード店の店員となることになりました。昭和24年の事でした。家族3人が集まるのは唯一の仕事が絶対家族二人住めるようにする。自分

馬車馬のごとく仕事に精を出しました。血液まで売りました。ようやく家族3人で住めるようになり都営住宅に引っ越しました。その後、結核を患いました。兄や姉を亡くした結核、しかし自暴自棄になつた私をたしなめ、色々な方々に支えま頂きました。その後結婚して、独立して事業も始め必死で働きまわりました。縁にも恵まれ、目黒に自宅を持つことが出来ました。母を100才で見送る事も成人して私も今年77才になりました。孫も思い入れがあるのです。



我々の人生は波瀾万丈でした。感謝の気持ちがかわいてきます。私は様々な人に生かされてきたということ。体を丈夫に生かされてきたということ。送り出すこと。両親や子供たちを送り出すこと。そしてこの家に感謝している子供たちをささえてくれた妻や両親、そして子供たちをささえてくれた妻に感謝しています。今後我々は残りの人生を楽しくしようと思えます。ありがとう。(目黒区八雲/H・K)

○ 奥様からの投稿です

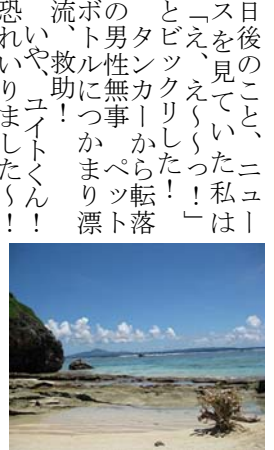
私は主人と結婚しましたが結婚式も満足にせず、狭い一間同然の都営住宅で親夫婦4人が同居する形で新婚生活とは形式だけのものでした。結婚は厳

しい人で曲がった事がきらいで私は「はいはい」とお人形さんの様に従うしかなく、とても苦勞しました。主人も貧乏はしていましたが、両親にしてみれば、上の兄弟を結核で亡くして、ちやま、大事なので、私は大変でした。しかし、すべてにめげずに乗り越えて来られたのも私の父母、母亡き後、係わってくださった方々のおかげだと感謝しています。結婚したあと色々ありましたが、今ふと主人とふりかえると我々の人生には無駄な事は無かったと感ずています。子供達にも感謝していただきます。おとうさん、これからよろしくお願いします。(目黒区八雲/K・K)

● ペットボトルに
ありがとう

私は南太平洋にある小さな島に住んでいます。トモさんとユイト君(8歳)親子とロングビーチという白砂のビーチに遊びに行つた日のこと。ユイト君と8人でビーチの奥まで歩いて行くと、あちこちに漂流ゴミが点々と落ちていた。美しいビーチなのに漂流ゴミはいたくない。ユイト君が「ゴミのペットボトル、探してちょうだい。蓋付きのね。」と私に言った。うん、あるある、あちこちに落ちて

いるけど、何のため? ユイト君は「ペットボトルにするの。」私「ペットボトル板?」今教えてあげるから。」と言って適当な空のペットボトルを拾って海に入つて行くと、そのペットボトルにつかまってバタ足で泳ぎ始めた。これだ! ユイト君が「これだ! ユイト君が自慢げに言った。」「あ、そうか! 思い出した。小学校のプールの時間にバタ足の練習に使つたペットボトルだ!」空のペットボトルなら空気が入るので、浮き輪の代わりに使えるんだ。そんなことをしてビーチで遊んだ4



● 友人にありがとう (マリアナ諸島アニアン在住/mich) 先日亡くなった父の49日法事のお坊さんが「お香典」の意味を教えてくださいました。お香典というのには最高のお香を供えるそうです。現代では「お香を買ってください」とお金を差し上げるものだからです。先日主人と喪中のお知らせを出してしまいました。数日して同級生の友人から宅急便がとどきました。その友人の電話番号を知らなかったので父の葬儀の知らせを出すのを忘れていたのです。桐箱に高価なお香が入っています。心づかいがとてもうれしくて涙が出てきました。私は友人に恵まれて幸せです。ありがとう。父もきっとよろこびます。 (横浜市/Y・T)

日後のこと、ニュースを見ていた私は「え、え、え、え!」とビックリした! タンカーから転落の男性無事 ペットボトルにつかまり漂流、救助! いや、ユイトくん! 恐れいりました! 君の教えてくれたことは人の命も救えることだったのね。おばちゃん、とっても勉強させてもらいましたよ。大切な命を救う事もできる、空のペットボトル。緊急の場合のヒントを教えてくださいませんか! 人の命を救ってくれたペットボトルにもありがとう!

●道を教えてくれた若者に

ありがとう

先日、主人と二人で最後の第二の住まいを見にゆきました。田園風景の広がるローカルな単線に乗って千葉駅につきました。千葉駅で下車して町を探索してみることにいたしました。

久しぶりの千葉駅周辺は新しい建物が建ち並び私も主人もすっかり浦島太郎の心境で、繁華街を進むうちに我々は迷子になってしまいました。「とりあえず道を聞いてみよう！」と声をかけたのが、だらしなくズボンを下げてはいている今風のファッション・髪型の若者でした。

私は「しまった。もつとちゃんとした人に聞けばよかった」と後悔しながらも「千葉駅の方角はどつちですか？」と聞きました。すると意外にも若者はとても礼儀正しく「はい僕もそちら方向にゆきますので、ご一緒しましょう。」と一緒に歩いてくれました。

じつは私は先日、大病を患い、手術をうけたばかりでした。術後間もないのでゆっくりしかあるけない私に青年は歩調をあわせて歩いてくれます。駅までの道すがらお喋りしながら聞いてみると青年は、予備校に通う受験生でした。親に負担をかけられないので公立の大学を目指しているとのことでした。

駅に着くと青年は「どちらまで帰られるのですか？」と聞きます。青年は津田沼まで帰るそうでした。「東京方面なら快速が速いですよ。僕も同じなのでご一緒しましょう。」と先導して

くれます。車中楽しくお話ししてもらいました。青年と別れたあとで主人と私は「人をみかけで判断してはいけないね。とてもよい子だったね。」と話し合いました。

最近の若い者は・・・とよく嘆いていましたが、「まだまだ日本のわかものも捨てたものじゃないね。ああいう青年がいるなら楽しみなね。」と主人と話ながら帰ってきました。親切にしてくださってありがとうございました。

●親子で来店されるお客様に

ありがとう

私は理髪店をやっています。仕事柄お客様と向き合い調髪しますので会話がおぼろげで、よく人生相談をされたりもします。先日いつもの男性のお客様がみえて暗い顔をしています。調髪中もだまってぼーっとしている

ので「どうかしたんですか？」と聞いてみました。なんでも、息子さんがかかっている学校に行かずにやんでいるというのでした。私には何も助言が来ずただ聞いていただけでした。何日かして先日のお父さんの息子さんが来店されました。

調髪しながら、悩みを聞いてみました。すると彼は「すらすらと、親子関係の事、学校のこと、彼は彼なりに悩み、そして両親に言えずにいる事を話してくれまし

た。心がいっぱいいっぱいになって引きこもっていたようです。後日お父さんが来店された時にお伝えすると、「ありがとう。息子はそんな事で悩んでいたのですか。話し合ってみます。会話が少なかったです。」と帰ってゆかれました。

最近では親子で話し合われた結果、息子さんも元気に学校に通っているそうです。お役に立てて私はとてもうれしいです。それに私の息子もいずれば青年になり、同じような問題が出てくるという事を教えていただいていたありがとうございます。

●平和でぬるぬるに

ありがとう

先日お友達のおばあさんのお宅におじゃました際に、ご主人が21才の時に将校として戦地に旅立つ直前に書かれた「遺言」を読ませていただきました。

ご両親を案じて子孫が途絶える事の無念さや養子をもらって欲しいという希望。両親の健康を案じている内容。そして生んで頂いた事への感謝。先に逝く事を決して悲しまないでほしいという心遣い。

読み進むうちに涙があふれてきました。戦争を知らない私の世代は平和でいられる事に感謝せねばならないと感じました。そして戦争で亡くなられた方々がいるから我々が平和でいられるのだと感謝し、そして二度と戦争をおこしてはいけないと感じました。

(ありがとう・不動産/豊田泰幸)

【携帯 Deショット】
～♪～咲いたよ 咲いたよ 大きな
菊が 露にも萎れず 霜にも枯れず
花笠さして 綺麗に咲いた 薫れ
やかおれ白菊 黄菊～♪～
これは童謡の『菊の花』の歌詞です。
風が運ぶ菊の香りは辺りを優雅な
空気で包みます。

【原稿をお待ちしています。】
本誌は北海道から
沖繩までの友人知人
から寄せていただいた
ことばに因んだ思い
出を、作文、詩、俳
句、短歌、写真、絵
画などを掲載します。
作品は編集部まで
お送りください。投
稿いただいた方には、
ささやかではございますが、オリジナル「ありがとうマガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。
また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがでしょう。編集へのご意見やご提案がございましたら是非お聞かせください。

